

サードステージまでのビジョンの成果を次へとつなげる

*Kyosho Vision Next*

# 京商ビジョンNEXT を策定

11月から新しい役員・議員体制が発足し、立石会頭の4期目がスタートしました。「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針に掲げ、9年間にわたり推進してきたニュー京商ビジョンを継承・発展させ、今後3年間の“次なる展開”に向けて新たに策定した「京商ビジョンNEXT」の概要を解説します。



## 「知恵の集積」による 価値創造都市への挑戦

人口減少・超高齢社会の進展に伴う様々な課題を克服するために、日本各地で「地方創生」や「億総活躍」に向けた取り組みが始動しています。

京都においては、京都の未来を考える懇話会が策定した「京都ビジョン2040」に基づいて、2040年のありたい姿である「世界交流首都・京都」の実現に向けた施策をオール京都でいち早く推進し、その成果として、地方創生のシンボルとなる「文化庁の全面移転」が決定しました。さらに平成31年春には、京都経済百年の計である「京都経済センター（仮称）」が完成します。

これらを追い風として、本所では、「知恵産業のまち・京都」をさらに推進することによって、地域の特性や企業独自の強みを活かした「知恵ビジネス」を多様な産業群として「集積」させ、「世界交流首都」の柱の一つである「価値創造都市・京都」の実現へとつなげていきたいと考えています。

京商ビジョンNEXTでは、京都経済センター（仮称）の機能と協働しながら4C（Chance, Challenge, Creation, Change）を循環させ、「知恵の集積」をはかることを目指しています。知恵のコラボレーションや販路開拓への支援を強化するとともに、会員間のビジネスマッチングや交流の機会を創出し、さらに、文化や創造性を活かした産業振興、観光・交流の推進など、京都の文化力、文化資源を活かした事業を展開してまいります。

本所では、未来を見据えた本ビジョンに基づき、会員の皆さんとあらゆる分野で新たな価値創造に挑戦し、知恵産業が輝く京都の創生につなげてまいります。

京都商工会議所会頭 立石 義雄

2040年

# 『世界交流首都・京都』 の実現に向けて

京都が目指す社会像 京都ビジョン2040

世界交流首都・京都

世界の文化首都・京都

大学のまち・京都

価値創造都市・京都



京都経済  
センター(仮称)  
8つの機能

1. 交流と協働の促進
2. 戦略的産業振興施策の推進と情報発信
3. 中小企業の育成支援
4. 産学公連携の推進
5. スマートシティ・スマートコミュニティ(地域創生)の実現
6. 海外への販路開拓と海外からの投資促進
7. 繊維産業の振興
8. 産業人材育成支援

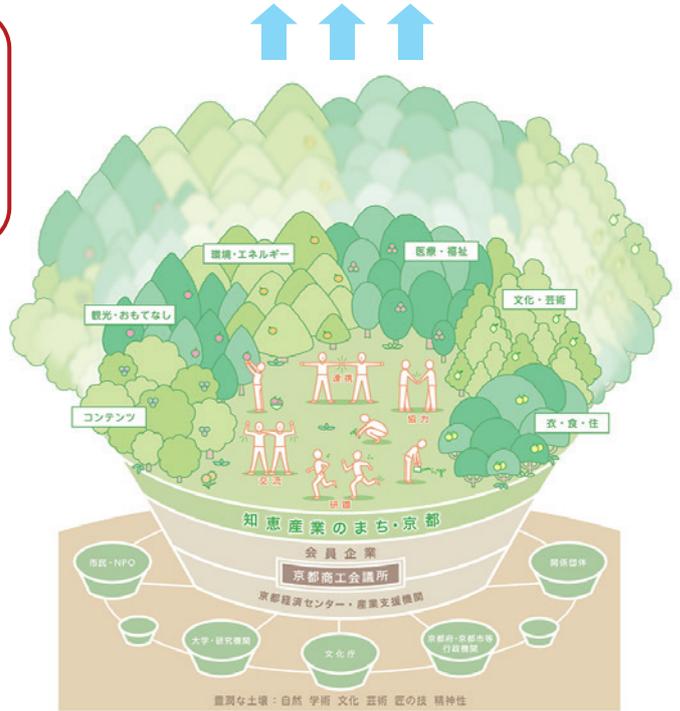
ビジョンNEXT  
知恵の  
集積

京都経済センター(仮称)完成  
(2019年1月予定)

【サードステージ】連鎖 (2014~16年)

【セカンドステージ】誘発 (2011~13年)

【ファーストステージ】啓発・育成・発展 (2008~10年)



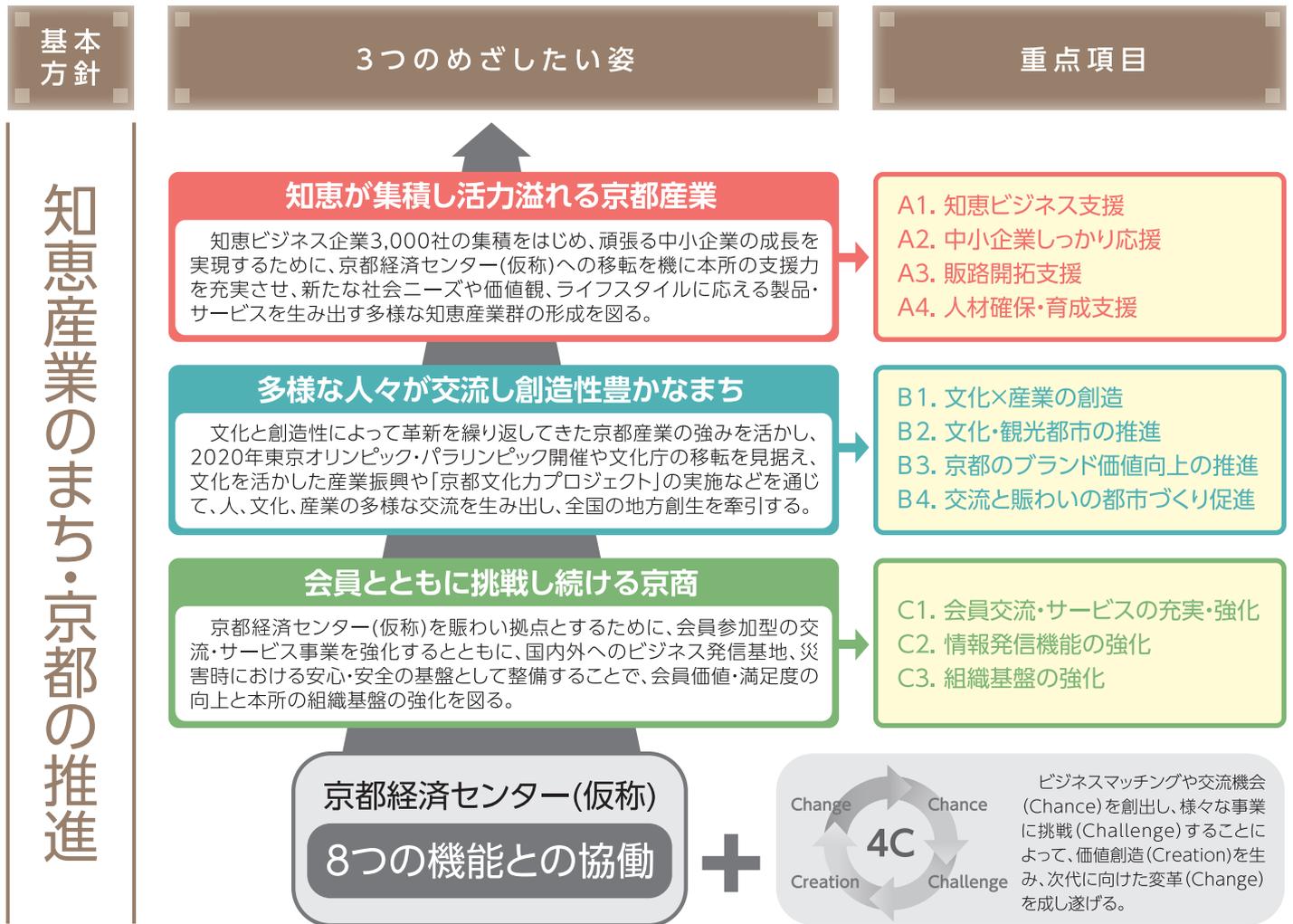
## 連携と文化の力で大きく育つ「知恵産業の森」

2040年の未来像である「世界交流首都・京都」を実現するために、「知恵の集積」をはかる京都ビジョンNEXTのコンセプトを紹介します。

本所では、知恵ビジネスの育成をビジョンの柱に位置づけ、ファーストステージでは「知恵の啓発・育成・発展」、セカンドステージでは「知恵の誘発」、サードステージでは「知恵の連鎖」を目指して重点的に取り組んできました。知恵ビジネスが多様な産業群として集積する「知恵産業の森」を目指した取り組みは、行政や他の産業支援機関にも広がっています。本所が実施してきた「知恵ビジネスプランコンテスト」をはじめとするオール京都による支援によって、知恵ビジネスに関連する認証を得た企業は1500社にも及び、多様な知恵産業の森づくりに向けた基盤が整いつつあります。

京商ビジョンNEXTでは、こうした知恵の連鎖を拡大するための支援を充実・強化するとともに、中小企業の育成支援をはじめとする8つの機能を有する「京都経済センター(仮称)」を創造的な知恵の連携拠点として整備し、各産業支援機関の支援や企業間の交流を効果的に展開することによって、飛躍的に「知恵の集積」をはかることを目指しています。京都に移転する文化庁とも連携し、文化・芸術や学術など多様な知恵の交流を生み出すセンターとすることで、「衣・食・住」や「健康・医療・福祉」、「観光・おもてなし」といった様々な分野の枠を越えて、知恵のコラボレーションやイノベーションを誘発する取り組みを推進します。

施策体系図



3つのめざしたい姿と各重点項目及びアクションプラン

「知恵産業のまち・京都の推進」という基本方針のもとで、本所自身や京都産業、都市の視点から、それぞれのめざしたい姿と各重点項目及びアクションプランを定めました。

「会員とともに挑戦し続ける京商」では、本所が会員と切磋琢磨し、新たな価値創造を繰り返すことによって、会員ニーズに応え、会員満足度の向上と本所組織基盤の強化につなげる姿をめざします。重点項目は、会員のネットワーク強化や満足度向上のための「会員交流・サービスの充実・強化」など3つを掲げています。

「多様な人々が交流し創造性豊かなまち」では、文化と創造性によって革新を繰り返してきた京都産業の強みを活かしながら、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催や文化庁の移転を見据えて、人、文化、産業の多様な交流を生み出し、全国の地方創生を牽引する姿をめざします。重点項目は、京都の文化や創造性、伝統産業の強みを活かして多様な分野で知恵の連携を加速させる「文化×産業の創造」など4つを掲げています。

「知恵が集積し活力溢れる京都産業」では、知恵ビジネスの集積をはじめ、頑張る中小企業の成長を実現するために本所の支援力を充実させ、多様な知恵産業群の形成をはかる姿をめざします。重点項目は、知恵産業の集積に向けた「知恵ビジネス支援」や「中小企業しっかり応援」など4つを掲げています。

そして、この3つのめざしたい姿を実現するための共通の基盤として、京都経済センター(仮称)の8つの機能と協働しながら、4Cを循環させて推進するイメージを掲げています。

各重点項目のアクションプランについては、次のページで紹介しています。

# 知恵が集積し活力溢れる京都産業

重点項目

## A1 知恵ビジネス支援

次代の京都産業を支える知恵ビジネスの芽をさらに創出するとともに、企業間のコラボレーションの促進を通じて多様な「知恵産業の集積」を加速化させ、イノベーションを誘発する取り組みを推進します。

### Action Plan

- 京都経済センター（仮称）を拠点とするオール京都による知恵ビジネス支援の推進
- 「知恵ビジネスプランコンテスト」など知恵産業の集積に向けた支援の実施
- 「知恵産業の森」実現に向けた「知恵ビジネス・プラン3000社創出支援プロジェクト」の推進
- クラウドファンディング等の活用を通じて多様なビジネスを支援する「知恵ビジネス・スタートアップ事業」の展開
- パリ商工会議所との友好協定調印30周年にあわせた「知恵ビジネスメッセ in PARIS」の開催
- 産学公連携による京都イノベーションベルトの推進
- 京阪神の連携によるライフサイエンス関連産業振興の推進

重点項目

## A2 中小企業しっかり応援

経営の安定・強化をしっかりとサポートするために、支援体制やメニューを再構築し充実します。また、持続的な成長に向けて創業・事業承継や生産性向上等への支援を強化します。

### Action Plan

- 経営課題解決に向けた京都経済センター（仮称）における「中小企業応援隊」活動など支援体制の再構築
- 経営発達支援計画に基づく伴走支援の強化
- 「創業ビジネスサロン」の開催など次代を担う産業育成のための創業・事業承継支援事業の強化・充実
- 「IoT活用セミナー」の実施など中小企業のIT化促進
- 企業の競争力強化を目指した環境経営への取り組み支援

# 応援

重点項目

## A3 販路開拓支援

首都圏、海外等のマーケットや成長分野に挑戦する意欲的な事業者の商品開発や販路開拓への支援を充実します。また、新たな顧客創造を効果的に支援するためにマッチング機会や需要動向の提供を強化します。

### Action Plan

- オール京都による首都圏販路開拓支援事業「京都知恵産業フェア in TOKYO」の開催
- 新たなマーケットの開拓に向けた「テーマ別商談会」や事前マッチング型の「マンスリー商談会」の開催
- JETROとの連携による「海外ビジネス相談デスク」の運営など海外販路開拓支援の強化
- 京都の産業特性を活かした京都ブランド海外展開への支援充実
- パリ商工会議所との友好協定調印30周年にあわせた「知恵ビジネスメッセ in PARIS」の開催（再掲）

重点項目

## A4 人材確保・育成支援

中小企業の人材確保に向けて、大学等と連携しながら中小企業の魅力の発信や企業と学生のマッチングに取り組みます。未来を担う産業人材を育成し、女性など多様な人材の活躍を促進することで、地域の活力を創造します。

### Action Plan

- 中小企業の人材確保のための「京商インターンシップコンシェルジュ事業」の展開
- 情報発信力強化のための「知恵キラリ京の中小企業会社説明会」の実施
- スキルアップや知識習得など産業人材育成を推進する「京商ビジネススクール」の拡充
- 京都ウィメンズベース等との連携による中小企業のダイバーシティ推進

# 人材

## めざしたい姿

## 多様な人々が交流し創造性豊かなまち

重点項目

B1

## 文化×産業の創造

京都の文化や創造性、伝統産業などの強みを活かして、新たな価値やビジネスモデルを生み出すために、文化、産業など多様な分野で知恵の連携を加速させます。

## Action Plan

## 創造

- 新たな価値創造を図るクリエイティブビジネス創出に向けた中小企業のための「オープンイノベーション」促進
- 「和装(きもの)文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた支援の実施
- 伝統産業の技術伝承とイノベーションに向けた「伝統産業ステップアップサロン」の実施
- 農商工連携による食の6次化等の推進

重点項目

B2

## 文化・観光都市の推進

文化庁の京都移転を契機として、文化、スポーツをはじめとする多様な地域資源を活かし、新たな魅力づくりを図る観光の振興に取り組みます。

## Action Plan

- 文化財や産業遺産の活用など新しい観光資源の開発推進
- スポーツやコンテンツビジネスなど京都産業を活かすインバウンド資源の発掘
- 地域文化・資源を活用した新たな広域観光プログラムの開発・推進
- 「クリエイティブ産業モデル企業探訪ツアー」、「京都工芸の美学校」など中小企業の魅力を発信する産業観光プログラムの実施
- 観光事業者などサービス産業分野のおもてなし力向上のための事業の推進

重点項目

B3

## 京都のブランド価値向上の推進

世界が憧れる都市ブランドを確立するために、産業やまちづくり、人材育成などの各分野で、京都の知恵や文化、おもてなしを磨き上げるとともに、京都ブランドの魅力発信に取り組みます。

## Action Plan

## 価値

- 新たな伝統を創造する「京都創造者大賞」の展開
- 1級複数回合格者を表彰する「マイスター制度」や団体受験者による「G-1グランプリ」の実施など京都検定の活性化
- 京都MICE振興のためのMI誘客活発化の推進
- 「京都文化カプロジェクト2016-2020」の推進と「文化×産業展覧会2020(仮称)」の実施

重点項目

B4

## 交流と賑わいの都市づくり促進

国内・海外からの集客増加と質の高い交流を実現し、地域の活性化に結び付けていくために、モデルとなる交流拠点・エリアを整備するとともに、交流効果を拡大するためのインフラ整備やまちづくりを推進します。

## Action Plan

## 交流

- 宿泊施設の確保に向けた町家の活用や大型宿泊施設誘致の促進
- 京都駅西部・東部エリアなど新たな賑わい拠点の整備促進
- 安心・安全で快適な歩行者空間の確保、次世代交通システム、良好な都市景観の整備促進
- 北陸新幹線・リニア中央新幹線の全線早期開通の促進
- 京都スタジアム(仮称)の建設促進

# 会員とともに挑戦し続ける京商

重点項目

## C1 会員交流・サービスの充実・強化

会員の絆・ネットワークをさらに強化し拡大するために、多様なテーマや分野で交流事業を実施します。会員満足度のさらなる向上に向けて、会員価値やメリットを実感できるサービス・事業の開発を推進します。

### Action Plan

- 全会員の参加を目指した「会員のつどい」など「会員交流強化プロジェクト」による多様な交流事業の実施
- 会員サービス拡充検討会議による新たなサービスの開発など会員価値・満足度の向上
- 会員優待サービスの拡充と利用促進
- 会員企業の視察・交流会やトップリーダー講演会等の実施

重点項目

## C2 情報発信機能の強化

会員のビジネスに役立つ情報や本所に関する情報をSNS等多様なメディアで効果的に発信するとともに、京都経済に関する情報発信拠点として京都経済センター(仮称)を活用します。

### Action Plan

- 京都経済センター(仮称)における経済界や京都企業の情報発信拠点の整備
- SNS、フリーペーパー等を活用した広報・情報発信事業の充実

強化

重点項目

## C3 組織基盤の強化

京都経済センター(仮称)への移転を組織の強靱化につなげるために、会員増強や財政基盤の強化に取り組みます。支部体制の見直しなど事務局機構や事業・サービスの改革を図ります。

### Action Plan

- 会員の拡大・定着に重点を置いた会員増強運動の実施と財政基盤の強化
- 京都経済センター(仮称)への移転にあわせた各種記念事業の実
- 大規模災害等に備えたBCP対策の推進

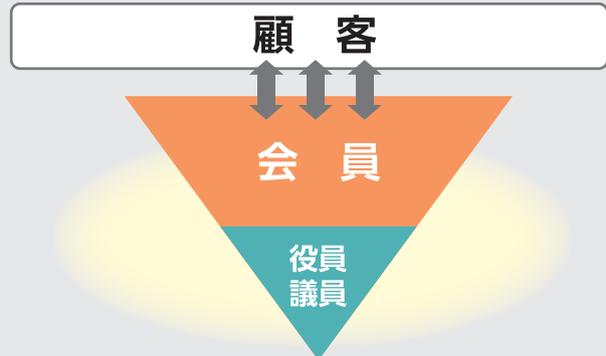
### PDCAサイクルによる事業の進化

#### 京商ビジョンNEXT (3カ年)



ビジョンに基づく毎年の事業計画では、客観的な指標を設定し、PDCAによる効果検証を行います。効果検証をもとに、事業をさらに進化させます。

### ボトムアップ型の組織運営



顧客を創造する会員が主役であり、自律した部会運営のもと、会頭を含め役員・議員が支える「ボトムアップ型」の組織として、逆三角形の運営を展開しています。

〈ご意見・ご質問は〉本所 企画室 TEL.075-212-6430 E-mail kikaku@kyo.or.jp